

土佐育英協会の「生い立ちシリーズ」①

土佐育英協会は、昭和 33 年 3 月に3つの育英法人が合併し、財団法人として設立されました。その後、平成 26 年 4 月に公益財団法人となり、東京学生寮(土佐寮)の運営及び大学生等への奨学金の貸与業務を柱に、事業展開をしています。

当協会の生い立ちは、この 3 法人のうち設立最古の土佐協会が、その起源となります。

※3つの育英法人とは、(社団法人土佐協会=東京寮、財団法人高知協会=京都寮、財団法人土佐奨学会=高知奨学金)のことをいいます。

明治 17 年 10 月 20 日、当時、東京大学生であった和田義睦、同予備門生徒平石氏人ら 6 人が東京都神田区裏神保町一番地で「信義を厚くし学術を講究する」を信念とする小さな団体「**土佐同志会**」を設立しました。これが土佐協会の起源(土佐育英協会の原点)となります。

当時は、全国的に教育制度が不十分で、高知県下にも高等教育を施す機関がなく、高度な学問を身に付けるためには、上京するしかありませんでした。

しかし、上京はしたものの県出身者を世話する団体は無く、下宿できても巷の風俗の乱れに巻き込まれ、勉学に適した環境とはいえませんでした。そこで、勉学に励む体制を整えようと東京大学生等の 6 人(上記 2 人のほかに田岡正樹、新居楠次郎、木村久壽彌太、藤崎朋信)は、そのうちの 1 名の下宿屋(神保町一番地)に集まり、「土佐同志会」を発足させました。そして、自分たちだけの一小団体として終わらせないよう、新たに上京してくる高知県出身学生や在京学生が、一体となって学習できる親睦団体となることを申し合わせたのでした。

当初は、今日のゼミナールと県人会を合わせたような活動でしたが、次第にその活動範囲を拡大し、明治 28 年からは奨学金規程を定めて育英事業にも着手し、本格的な育英団体へと成長したのです。

明治 32 年 11 月には法人化し、「**社団法人 土佐同志会**」として寄宿舎経営に乗り出し、高知県出身の学生寮として「富士見寮」を設置しました。これが土佐寮の創設・起源となります。

富士見寮は、千代田区麴町富士見町にあった高知県出身者の社交団体「富士見倶楽部」の建物を改築してできた寄宿舎で、収容人員は 20 名でした。

明治 33 年 12 月、寮の共同経営者である土佐振武会を吸収合併し、名称を「**社団法人 土佐協会**」に改称しました。

次号へつづく。